

## ショートコメントvol.7 (2013年6月14日)

[テーマ]

- ① 関西経済にとっての成長戦略の重要性
- ② 今夏のボーナス商戦の視点

### ① 関西経済にとっての成長戦略の重要性

アベノミクスの第三の矢である「日本再興戦略」が14日に閣議決定されましたが、関西経済は現状、域内での設備投資が非常に増えにくくなっているだけに、成長戦略にかかる期待は他地域以上に大きいと考えられます。

直近の法人企業統計によると、関西の設備投資は3四半期連続で前年を下回っており、全国以上に厳しい状況にあります。これには、関西の輸出はアジア向けのウェイトが高いことで回復が遅れている影響もあるでしょうが、仮に輸出が順調に回復したとしても、設備投資が増えるかどうかは不透明な状況です。企業の間で進んでいる地産地消の動きについては、商品供給の迅速化や開発の利便性など、決してコストだけが要因ではありません。それだけに、成長戦略によって国内での設備投資を促す動きは、今後の関西経済の成長には必要不可欠といつてよいとみられます。

一方、成長戦略の内容は非常に多岐にわたっていますが、特に関西には技術力の高い企業が多いだけに、既存技術の転用が可能な分野については非常に注目度も高く、設備投資も促しやすいとみられます。例を挙げるとすれば、環境・エネルギー分野もさることながら、やはり医療・介護関連の機器、ロボットが注目されます。同分野は今回の成長戦略でも柱の一つとなっていますが、すでに電子部品のメーカーが介護ロボットの開発を発表するなど、具体的な動きが始まっています。需要の面から考えても、関西の高齢化率は22.9%と都市圏にしては高い状態であり(南関東は20.5%、東海は22.2%)、今後の市場の拡大余地は大きいといえそうです。さらに、医療関連でいえば、関西には医薬品メーカーの集積がみられるほか、iPS細胞を活用した再生医療の研究などでも優位性を持っていることから、地域としてのポテンシャルは非常に高く、産学官連携を含む企業、団体同士のコラボレーションも進みやすいと考えられます。

実際に同分野で設備投資を促していくためには、具体的な規制緩和の内容やタイムスケジュールなどの開示が求められますが、それと並行する形で、今秋には最先端の医薬品や医療機器の承認審査を行う「医薬品医療機器総合機構(PMDA)」の拠点が大阪に新設される予定です。新たな産業へのシフトを模索する企業が増えるなか、これらの動きが関西における医療分野への参入機運をさらに高めるものとみられます。

### ② 今夏のボーナス商戦の視点

5月の内閣府「景気ウォッチャー調査」では、現状判断DIが2か月連続で低下するなど、市中の景況感はあまり芳しくない状況ですが、今夏のボーナス増加が一つの起爆剤になるとして期待を集めています。これまでの株高の恩恵は高所得者に集中する傾向が強く、円安の影響も輸入物価の上昇が

先行するなど悪影響が目立っただけに、ボーナス商戦はアベノミクスの効果が広く体感できる機会としても注目されています。

ただし、全体的には円安効果等で輸出企業の業績の改善が進んでいることから、前年よりもボーナス支給額が増える可能性は高いとみられますが、業種や企業規模による格差が大きくなりそうな点に注意が必要と考えられます。

輸出の動向をみても、中国向けの回復が遅れているほか、欧州向けも依然として前年割れが続いているなど、数量面での円安効果が十分出るには至っていません。それに伴い、業績の改善も米国向け輸出の多い企業や、国内生産の多い企業などに集中する傾向がみられます。特に、輸出に占める中国の割合が高い関西では、業績改善の遅れに注意が必要な状況です。

また、中小企業に関しても、輸出の回復の遅れで受注の回復がなかなか進んでおらず、収益面でも仕入コスト増加の打撃が大企業以上に大きいなど、厳しい状況に置かれています。

こういった状況の中、ボーナス支給額が前年を下回るような企業が多くなれば、仮に関西トータルでの支給額が前年を上回ったとしても、ボーナス商戦が期待されているほど盛り上がりえない可能性もあるとみられます。特に、最近では消費者の間で節約志向が再び高まる中、不要不急の消費には慎重な傾向が強まっていることもあるだけに、注意が必要といえるのではないのでしょうか。

本件照会先: 大阪本社 荒木秀之  
TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。